

月報 岡崎の教育



1月号

昭和64年1月1日
 発行 / 編集
 岡崎市教育委員会

いてつくような寒い朝も
 軽快な音楽にのって
 がんばり集会が始まる
 七色に光るなわとびの輪
 今 一千個の輪となって
 ビュンビュンうなり声をあげている
 機械の歯車のように
 力強い動きだ
 着実な動きだ
 一飛びするたびに
 また一つ大きな輪がまわる
 力強く大地をけって
 朝日のあたる地球をけって
 タツタツと足音が響く
 時を刻む時計のように
 そうだ 確かに
 その一飛びごとに
 あなたたちの体は鍛えられ 育つ
 いつか校庭から 跳び立っていても
 このやわらかな土の感触を
 胸一杯にすったふるさとの空気の味を
 忘れないでほしい

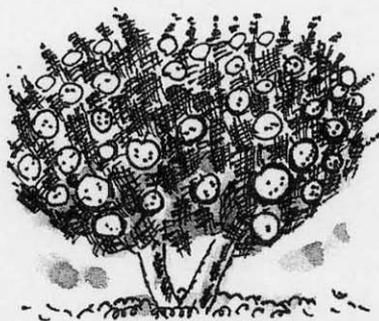
〈がんばり集会〉



(しめ縄作り — 大門小)

元来、人間は食欲・学習意欲を有し、身体的に生長し、精神的には人間らしく形成される可能性を持っているものである。もちろん、求められる理想的な人間像は、国により、時代によって色々異なるであろうが、それらをふまえて、次のような多くの作用が、時には単独で、時には関連して、人間形成に働くものである。

まず第一に頭に浮かぶのは、環境の作



用である。孟母三遷の故事は、余りにも有名であるが、児童憲章における「児童は良い環境の中で育てられなくてはならない」と述べられているのも、人間形成における環境作用の重要性を指摘したものである。環境は、良かれ悪しかれ、それに接する者の反応を誘発し、人間形成に大きく作用するものである。驥は、人間の基本的行動様式の習慣

形成の作用であるが、驥にはその効果性の立場から、早期性の原理、繰り返ししの原理、一慣性の原理、先手の原理、転換の原理、個別化の原理等が考えられている。

第三番目に思い出されるのは、感化の作用である。感化は、ある事象に遭遇して価値意識に目覚める人間形成の作用である。同じ事象に遭遇しながら、ある者は、強い感化を受け、またある者は大し

— 教育随想 —

人間形成の 諸作用について

佐々登

た感化を受けないこともある。一般的に言って、強く求めていた事象にやっとなり、強く求めた場合と、特に優れた真・善・美・聖に触れた場合に、強く感化的人間形成を受けるものである。

第四番目の教導的作用は、知的理解を通して知識と理解力を養う作用である。もちろん、この作用は家庭でも社会でも行われるものであるが、教科を通しての知識や理解の形成は、学校教育の中心課

題であって学校で行われることが多い。

第五番目の訓練的作用は、目的達成に必要な行動様式と技術の熟練を形成する作用である。この作用は、家庭でも社会でも学校でも行われるものであるが、心身の発達に無理のない限りにおいては、一般的にいつて若いうちの方が効果的であるようである。

第六番目の集団体験的作用は、集団の中における具体的な人間関係を通して、自他の相互関係を理解したり、処理する行動能力を養う人間形成の作用である。

家庭集団は血縁関係によって結ばれた特殊な集団であり、人間が最初に体験する保育、養育等愛情を中心とした集団体験である。ここで忘れてはならないことは、愛情や豊かさに甘えて、許容家庭にならないことである。学校集団は、他人集団であるが、法的に保護された保護集団であり、同一年令集団であるところに、一般社会のような年齢的にも素質的にも異なる異質集団とは異なっている。

第七番目は、相談作用である。相談は対話を通して意識を整理したり新しい意欲を起こさせたりする作用である。「三人寄れば文殊の知恵」の諺のように、相談作用が人間形成に果たす役割も大きい。

以上人間形成の諸作用を列挙してみたが、これ等が家庭で社会で学校で、時には意図的に時には無意図的に作用することによって人間が形成されるものである。

(竜城会会長)



色は、きれいな色。

図工・美術科指導員

長坂 正延

秋、松山市のある小学校を訪問する機会を得た。

五年二組は「楽器を持つ友だち」(水彩画)の授業。

クロッキーの積み上げを感じさせる、生き生きとした鉛筆の線がすばらしい。力強い。

パレットを手に、イーゼルの作品に立ち向う姿に自信が感じられた。

そんな中、參觀者の注目を集めたのは筆の数。太・中を中心に一人で十四・五本。一本・一本が大切にしていねいに使われているのがうれしい。「たとえ、高学年で混色が中心になろうとも、色本来の美しさを失なわないよう、感動が美しい色となつて表れるよう」と指導の先生。

「わあー、きれいな色。」

初めて絵の具を使った時の喜びの声を忘れないでいたい。色の美しさに感動することが少なくなつてしまつているので



ふるさとシリーズ

—この人に聞く—

詩吟

峯澤 胆峰 氏

ここ数年の間に、日本吟剣詩舞振興会主催の全国剣詩舞及び群舞大会、幼年・少年の部で五名の優勝者を出し、その道では岡崎の名が知られていることをご存知の方も多いと思う。詩吟についての予備知識のない私どもを岡崎吟剣詩舞道協会長の峯澤氏は快く迎えて下さった。ご自宅は市の南部、柱町で国道二四八号から西に入った住宅地の一角にある。今でこそ住宅地になっているが昭和三十年代までは、木々が生い繁っていて寂しい所だったとお聞きする。

「誰でも入れるけれど、奥が深いのが詩吟です。近頃は愛好者も増えうれしいことです。岡崎吟剣詩舞道協会が誕生したのは十数年前で、その頃は五つの流派だけでしたが、今では十五の流派が加盟しています。流派は違っても、まとまって芸を競い合うことは大切なことだと思えます。岡崎市芸術祭参加の市民吟道祭も十三回を数え、年々参加者も増えています。」

峯澤氏は、北辰神明流日本修道館岡崎同門之会の代表者で、会の世話や弟子の指導にお忙しい日々を送っておられる。「学生時代に漢文の先生から詩吟を教えていただいたのが、詩吟を知った初めです。好きになって大勢の前で吟じたこともありました。でも本格的に先生について習ったのは、市役所に勤めていたときです。上役から「詩吟の先生がみえるから聞きに来ないか」と誘われたのがきっかけで、その方と詩吟クラブを作ることになってからです。それが昭和三十九年で、その頃は大きな声を出すと気持ちが悪くなりして、また新たな気持ちで仕事に向かうということもありました。」

昭和五十九年に長年勤められた市役所を退職されたが、詩吟とのつながりから昨年三月まで「せきいホール館長」を四年間勤められた。その間、精力的に岡崎市の文化的行事の運営に携わって来られた。

「館長であるときは、ホールの利用率はどうかということが常に頭にありました。ですから退任して思ったことは

さあこれから趣味を存分に生かそうということでした。先人の優れた詩を吟じると、その人の人生観に接することができ、自分の人生に信念を持つて臨むことができるのです。私が教えている方は年配者が多いですが、大いに子供さんにもやって貰いたいものです。部活動、進学等で中断することがあっても、小さい時に覚えたものは忘れるものではありません。札節を守って詩を吟じることは青少年の育成に役立つと信じます。」

お話をされているとき、峯澤氏は少しも姿勢をくずさず、語る口調は張りのある響きを持ったものだ。



生年月日 昭和二十年十月二十三日
住所 岡崎市柱町福部池一(三)

はないかと反省させられる。パレット、水入れ、筆、絵の具。今一度、基本にかえって指導していきいたいと思う。

一枚のTP

視聴覚指導員

白井 正壯

教室のスクリーンに子供達の視線が集まる。次の瞬間、小学校二年生の子供達の目が輝き、全員が身を乗り出して見つめている。

そこには、OHPを使って教師自作のTP「姿勢人形」が提示されている。腰掛けに座った時の「正しい姿勢」の学習で、良い姿勢と背骨が伸びる関係を視覚に訴え、わからせるため製作されたものである。

アイデアは、背骨の部分が厚手のシートをジャバラ状にして、容易に曲がるように工夫してあるところである。教師が「姿勢人形」の足を曲げると背骨も曲がる。頭を下げると背骨が曲がる。

子供達は「目を近づけない」「足を床につける」そうすれば、背骨が曲がらずよい姿勢になると、相互指名で活発に意見を出し合った。その中で、子供達の姿勢が徐々によくなっていった。

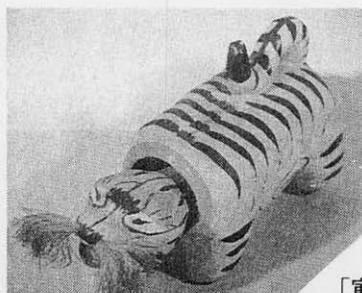
姿勢について自覚のすくない二年生に、正しい姿勢をわからせるのは容易なことではない。しかし、教師の熱意がTP「姿勢人形」を生み出し、その操作を通していきいきと学習する場面を創り出した。

加藤庄一コレクション



新春干支紙上展

「蚕玉十二支」 岩手県、まゆ玉で作った玩具



「寅」

静岡の張り子の虎。張り子は、大和の信貴の張り子の虎が有名である。首振りの姿がユーモラスで、全国的にひろまった。

エトは、古くは中国の股の時代にその起源を見るところ。後に、それが動物と結び付き、年を表すのに用いられるようになった。年が改まるごとに、新年のエトが話題となり、年賀状の絵柄にも使われるようになった。

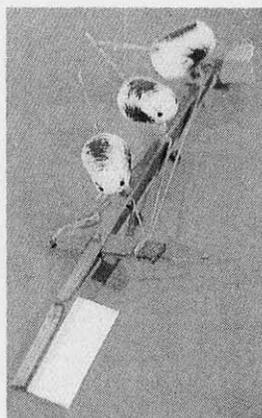
「まる庄」の加藤庄一氏は、郷土玩具のコレクターとして知られている。その膨大な郷土玩具の中からエトに困んだものを選んでいただき、「新春干支紙上展」として公開できることになった。

郷土玩具は、それぞれの土地の匂いを持っている。その土地の生活背景が、独特の郷土玩具を生むという。また、需要と供給の関係が郷土玩具にも生きているという。よい蒐集家とよい玩具製作者の出会いが郷土玩具を育ててきたといえよう。



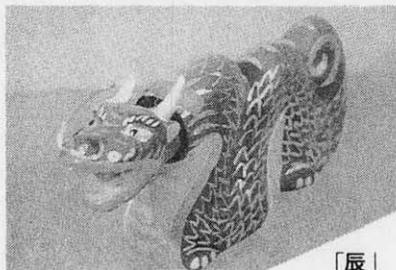
「玉うさぎ」

福島県三春の張り子のうさぎ。三春には、張り子の手踊りの人形など、ユニークな形の趣のある張り子を作っている。



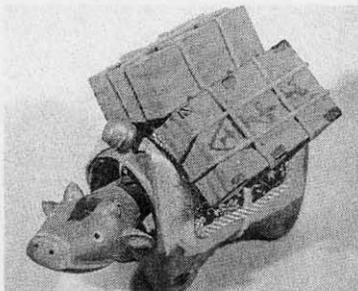
「回りねずみ」

名古屋の郷土玩具。竹と木で作られている。名古屋の玩具には、このねずみのように紐で動くように細工したものが多く。



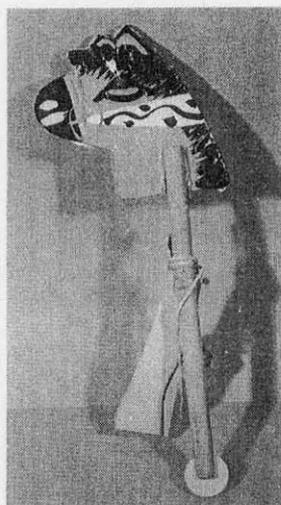
「辰」

松江市の張り子のたつ。張り子といえば、「とら」が有名であるが、20数年前、加藤氏のアイデアで、エトの張り子を作るようになったとのこと。



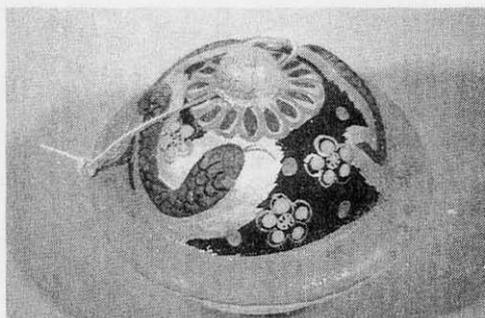
「金べこ」

宮城県白石の張り子のうし。これは、千両箱をしょっているが、なにもしょっていない「赤べこ」が特に有名である。



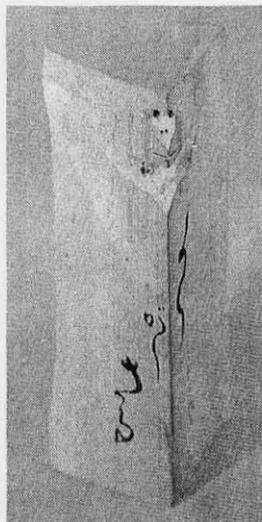
「倉吉の竹馬」

鳥取県の竹馬。大型のものは、全国的にあって、遊び道具になっているが、そのミニチュア版は倉吉独特のものである。



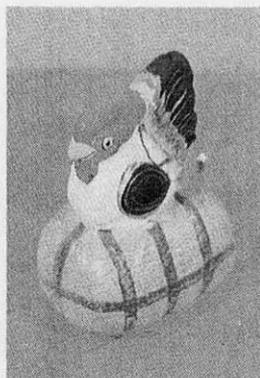
「美江寺の巳」

岐阜県的美江寺の土鈴である。美江寺は、釜鈴と蚤鈴が有名である。写真は、釜にへびが乗っている釜鈴である。



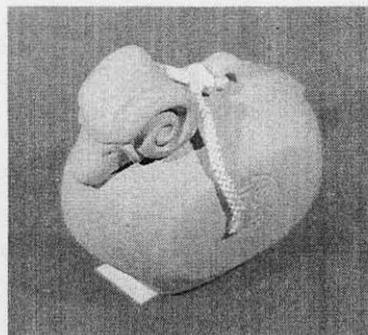
「木ざる」

岡崎のさる。くらがり渓谷で作られているもの。先生のアイデアで生まれた新しい郷土の人形。木を四つに割って顔を彫り込んだだけのユニークな形をしている。



「名古屋の酉」

名古屋の土鈴。名古屋には、蒐集家がおられ、郷土玩具の多い土地であったという。



「神宮未」

伊勢神宮巳未五十鈴。土鈴は、その音色によって悪魔をはらうとされ、昔から作られていた。神宮の土鈴は毎年えとにちなんで出されている。色彩を押さえた無駄のない作りである。



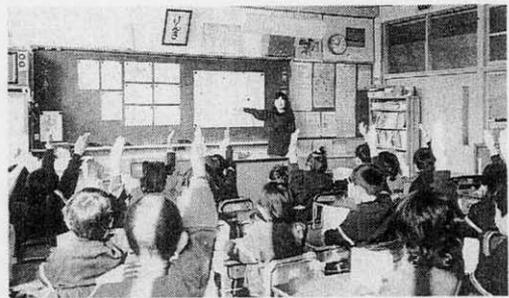
「亥」

仙台の堤人形。伊達家の城下町として栄えた仙台は、京都伏見の直系の人形が数多く作られた。優美な形のものが多く、飾り物としての風格がある。



「狛鯛」(ちんたい)

四国高松の張り子。宮内ふさ氏87才の作。狛鯛の製作者としては、昭和の最後の作者という。好事家垂涎のものという。



一枚詩集で 育つ子ら

福岡小 野勢 裕子

詩心のある子に、詩心のおか
る子に、詩心の發揮できる子に
なつてほしいとの願いのもとに
詩の学習を進めている。

先日、「クラスの友だち」と
いう題材で怒れたこと、嬉しか
つたこと、困ったことなどを思
い出させて、詩に綴らせた。

放課にボール投げの仲間に入
れてもらえなかった悔しさを綴
った日男と、廊下に整列中、何
もしていないのにつねられて怒
れ、やり返しているうちにけん

かになつたことを綴つたM男。

この二人の詩を「ともだちの詩
をよんでかんがえよう」と題し、
一枚詩集に載せ、思いを書き込
ませたうえで話し合いに臨んだ。

「だめだ。」と言つてボール投げ
の仲間入りを許さなかつたS男
は「おおぜいになると、ボール
をなげるかいすがへるから、
いやだなとおもつた。」と書き、
一緒にいたF夫は「べつにい
いじゃん」といつたのに「なん
で。」といつたよ。」と書いたが、
K男は「入れてくれなかつたら、
大きいこえでなんかいでもい
たら入れてくれたかもしれない
ね。入れてもらえたら、そんな
きもちにならなかつたね。」と書
き、H男を勇気づけている。

A子は「まえかえるとき、なか
まはずれにされたことがあるけ
れど、いまはともだちいっぱい
できた。みんなともつとなかよ
しになりたいな。」と綴り、クラ
スの子ともつともつと仲良く
りたいという連帯意識が感じら
れる。T子は「U夫くん、あん
まりともだちをいじめないほう
がいいよ。U夫くんはたまたま
だれかとけんかをするからいや
だなあとおもうけど、たまたま
いいこともするね。」と書き、腕
白坊主の脱線を描きながら

長所も認めている。

いたずらもするが、素晴らしい
一面も持ち合わせていること
を機会をとらえて紹介していく
ことの大切さを痛感している。

些細な出来事に過ぎないかも
しれないけれど、子供たちは時
にやるせない思いを体験しなが
ら成長している。そんな友だち
の思いを感じ取り、考え合い、
助け合い、励まし合つていける
クラスづくりをしたい。



この一瞬

新香山中 野々山宣子

「先生、もうこれじゃあ、あか
んわ。」

体育大会を四日後にひかえた
昼放課、クラスの応援団長であ

るA夫が、興奮した面もちで、
職員室に飛び込んだ。事情
を尋ねてみると、応援団員の話
し合いすらまとまらず、当日の
めどがまったく立たないといふ。

おつちよこちよいの彼ではあ
るが、応援団長に決まつてから
は、クラスをまとめようと彼な
りに努力をしていた。そんな彼
が、直前になつて仕事を投げ出
してしまつたのである。「行事
を通してクラスをまとめたい」
と常々考えている私としては、
内心穏やかではなかつた。しか
し、ここが我慢のしどころ。担
任として出すぎてしまうよりも
ゆとりの時間を与えて、生徒同
士で考えさせたかった。

その日の六時間目、
「応援というのは、みんなで団
結し精一杯頑張ることに意味
があると思う。一人でも心が
合わなかつたら、それは応援
ではないと思う。」

というA夫の訴えから始まつた
応援練習。見違えるほどは言
えないが、声の大きさ、表情な
ど以前よりちよびりましなも
のとなつていた。担任が叱つて
も生徒は動いたであろう。しか
し、それは一過性のものにすぎ
ない。確かな団結とは言えない。

体育大会前日、A夫と級長が

やつてきて、
「先生、応援練習を見て下さい。」
いつもと違う自信に満ちたそ
の顔に思わずつられて、教室へ
向かつた。

ふだんは声の小さいM子が、
照れ屋のS夫が、精一杯の声を
張り上げ一生懸命に応援歌を歌
っている。ことあるごとにA夫
と衝突していたN夫やK夫が、
真剣なまなざしで団長を見つめ
ている。

試行錯誤を繰り返しながらも
A夫を中心にして生徒自らの手
でクラスが一つにまとまつたこ
の一瞬。この子らの担任になつ
てよかつたと思つづく。



お知らせ



第22回

県教育論文最優秀賞

三島小 高須 教諭

愛知県教育委員会・同教育振興会主催の第二十二回県教育論文入賞者の表彰式が、去る十二月二十六日に県教育委員会教育長室で行われた。

岡崎市関係入賞者は次の通りである。

【個人研究】

▽最優秀賞 高須亮平(三島小)

「見通しをもち筋道を立てて考える算数学習」

「低学年にもわかる座標」の実践を通して

▽佳作 小倉敏幸(梅園小)

「問題意識の連続する理科学習」

「中学年理科のあり方とその位置づけを求めて」

▽佳作 渥美久美子(根石小)

「子どもが生きる読書を目指して」

【寄贈刊行物・資料等】

◆美合小 八十年史

美合小80周年記念事業

A 4 実行委員会 九五ページ

◆北野の里

B 5 北野小 一一六ページ

▽佳作 酒井久夫(竜美丘小)

「自ら自然に働きかけていく子供の育成」

「野外学習」虫と友だちになろう」の実践を通して

▽佳作 山田禮子(大樹寺小)

「課題をもって読み深める物語文読解学習」

「一六年「神の馬」の実践を中心にして」

▽佳作 高橋由美子(上地小)

「正しく美しい文字を書くための効果的な書写指導」

「生活に必要な書写力の向上をめざして」

▽佳作 山本 悟(東海中)

「真の英語教育のあり方を求めて」

「十五年度の授業実践の成果を踏まえて」

【共同研究】

▽佳作 代表 中野渡善樹

「意欲をもって楽しく取り組

む体育学習」

「六年単元」とび箱運動」を通して

▽佳作 代表 小柳好直

「生徒自らが進んで取り組む体育学習」

「体育実技ノートの活用を通して」

▽佳作 代表 水野昌孝

「やる気を育てる学習指導」

「変化と対応の単元を通して」

■市村アイデアサークル賞

「学校賞」—— 城北中

城北中が生徒のアイデアの芽を育てる活動に、積極的・継続的に取り組んでいることが認められ受賞した。昭和四十五年にサークル賞が設けられて以来、四校目の受賞である。

■岡崎市教育論文の応募状況

昭和六十三年度の岡崎市教育論文募集に対し、個人研究三百七十七点、共同研究七十二点、総数四百四十九点の応募があった。教科別の内訳は次の通り。

（小学校）

・国語 五十五・社会 三十九

・算数 四十

・理科 三十四

・音楽 八

・図工 十四

・保健 二十

・家庭 三

・英語 一

・道徳 八

・特活 二十三

・特殊 九

・視聴覚 八

・図書館 五

・保健 六

・生活指導 五

・教育全般 二十

・生活 五

（中学校）

・国語 十三

・社会 十一

・数学 十七

・理科 十五

・音楽 七

・美術 四

・保健 十二

・技家 十三

・英語 十一

・道徳 七

・特活 十八

・特殊 四

・視聴覚 六

・保健 二

（幼稚園）

▽広幡幼稚園（代表酒井昌子）

▽矢作幼稚園（代表竹内富子）

（小学校）

▽梅園小 杉山 隆之

▽根石小 河合美智代

▽羽根小 松井 敬子

▽岡崎小 米津 典子

▽連尺小 山田真寿美 浅井君枝

▽奏梨小 山田和子 今枝武司

▽常盤小 小久井美香 竹内孝之

佐藤敬子 岩村尚美

▽岩津小 江坂良夫 藤枝イトエ

▽大樹寺小 三木世繁枝 吉田 章二

鈴木理栄子 山本健治

鈴木孝幸 山口政之 柴田弘子

鈴木種春

▽大門小 三浦 敬子

▽矢作南小 高橋 啓三

▽六ツ美北小 江坂喜美代

▽六ツ美南小 浅井 近

▽上地小 名倉嘉章 河合友子

（中学校）

▽美川中 高木和広 山本信夫

▽南 中 櫻井公治 近藤文彦

内藤広光

▽常盤中 山田 賛平

▽矢作中 鈴木則夫 竹内昭博

▽矢作北中 渡辺 総意

▽竜南中 杉山 文子



昭和二十年十一月二十一日
愛知県豊田四谷町
豊田四谷町立男川小学校
聯合軍よりの指令
進駐軍ニ対スル学徒ノ指導ニ
関スル件
昭和二十年九月十二日付の文部省国民教育局長の
通牒をはじめとして、翌年九月
までの指令の数々が納められて
いる。

男川小学校

聯合軍よりの指令

戦後、社会の改革にはめまぐ
るしいものがあつたが、教育も
そのひとつである。この時期の
学校へのさまざまな通達をとり
まとめた綴が男川小学校に残っている。
「聯合軍よりの指令」と題した
この綴には、昭和二十年九月十
二日付の文部省国民教育局長の
通牒をはじめとして、翌年九月
までの指令の数々が納められて
いる。

ノ作業ニ配当シ積極的ニ協力セ
ルシムル様措置スルコト」
これは、先の国民教育局長名
による通牒の一節である。
昭和二十年十一月十六日には
「進駐軍ニ対スル学徒ノ指導ニ
関スル件」という号外が出され
ており、進駐軍の車に群らがり
物をねだるなどの行為を戒めて
いる。
これらの通達や指令を見ると
当時の学校現場の様子とともに
社会の状況をも物語る資料とな
っている。

- ・表紙写真 大門口 鈴木重則
- ・表紙詩 大門口 長坂八重子
- ・カット 六南小 小林泰子

この本を

- * 維新前夜 鈴木 明 ￥1500
小学館
- * 禅とは何か 水上 勉 ￥900
新潮社
- * 先見後顧 堺屋太一 ￥980
毎日新聞社
- * 思いがけない涙 日本エッセイストクラブ編 ￥1200
文藝春秋

※志ん朝の日本語高座 志ん朝 明 今藤 吉 齊 ￥1200
PHP研究所
7年近くに亘って2代目志ん朝が、NHKの番組「お好み邦楽選」で挿入した語りを、齊藤明氏とまとめた書である。全編が四季を大切にしている日本音楽の詞章にあわせて構成され、その1つ1つが「なるほど」とうなづかせる。「……また落語も日本音楽や歌舞伎などと、深いかわりがある。共に造詣の深い志ん朝さんには、易々たる話題だったようだ」(齊藤明氏)
落語家志ん朝の才覚に感銘する。

親子草——樫(ゆずりは)の異名。
樫は、新しい葉を生じてから古い葉が落ちることからこの名で呼ばれる。わたしたち教師の仕事にどこか似ている。新しい世代をしっかりと育てることに、思いを新たに作り組みたいものだ。
樫の日本の家明るき日 高島茂
明るい一年を期待したい。

シオア スア

しもやけで真赤にふくらんだ手をさらに赤くして校門をくぐったK子。今日も遅刻である。
お母さんに代わって、K子が弟の世話をしている。今朝は弟が保育園へ行くのをいやがったのだそう。それでも「遅れないようにがんばって」と心を鬼にして言う。強い子になつてと願いながら。

かきである。
どの一つをとっても、その玩具を入手した時、その土地柄、製作者とのかかわりが思い出されるという。氏の人間性を感ずる取材であった。

歩み始めた新しい年。「今年こそは……」と気迫みなぎる新春の顔。瞳輝く彼らの笑顔はまばゆい。
自己の目標に向かい、一歩一歩着実にそして、急がず、休まず、歩み続けて欲しいと願う朝。小さな一歩の連続が、いつか長い道となり、君の人生の足跡となるのだ。